



大平喜代江

協働、連携による地域福祉の推進

問 協働の意味するところについて

答 本町の山積する課題に対して、行政だけでは不可能な状況の中で行政と地域住民がともに一つの方向性を持って、課題解決のために連携することが必要であると考えている。

問 これまでの取組状況について

答 この間、NPOが立ち上がり、住民が主体となった取組みが多く生まれてきている。行政側として、十分に発揮していただけるよう支援していただくことは非常に大事であると考えている。自立された活動への支援はそれほど多くはないが、小さい形のもの、多くスタートさせている。



問 若い男女が受講対象となる講座を開催しても平日では勤務のため受講できないようなことがある。多様な視点で取り組むことについて

答 住民の方々の思いや意識をしっかりとくみ取り、計画、実施、遂行と取り組むよう部課には指示を出している。職員ともども真摯に受けとめて対応していきたい。

問 地域福祉計画をはじめ計画の推進について

答 理事者側も含め町職員に対し計画の具体化に意識を持って仕事に臨めという質問をいただいた。

問 5次総合計画の計画推進に当たり、公共のサービスのあり方、新しい公共のあり方を確立することが重要であると示している。そのような形で職員とともに進めなければ、新しい公共というようなものもほど遠いものになるかと思う。再度意識を新たに進めてまいりたい。



一般質問



西河 巧

農業振興と、町の活性化について

問 近年、和食が世界遺産にも登録され、国内外において高く評価されている。この食を支えている現場が農業である。本町における、環境の保全のために、美しい景観を創りだしていくためにも、農業の発展が大事だと考える。そこで能勢町の農業の現状と今後の展望について伺う。

答 大消費地を圏内に有する地域の特性を活かした観光物産センターや各種イベント等を通じ、消費者へ魅力ある能勢の農業を発信していく。

問 町の活性化に向けた農業への取組みについて



問 農業振興をしていく上で一番課題になっている鹿や猪等の有害鳥獣対策について

答 本町の農業振興上もとても重要な課題であると認識している。27年度には、既存の防護柵の効果を最大限発揮できるように農地と隣接する林縁部の刈り払い事業を新設した。

答 地方創生事業等の活用も視野に入れ、新たな産業やビジネスとしての新規性あるいは独創性のある農業者や企業を発掘し、地域の新たなビジネスへの支援事業を実施していく。

